

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 山口県立宇部総合支援学校（2023 年度実践）

所在地： 山口県宇部市黒石北 5 丁目 3-20
※都道府県・市区町村

氏名： 北川 正史（現山口県立徳山総合支援学校）

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 中学 2 年生

障害種別： 知的障がい、知的障がいを伴う ASD

主訴（主な困り） ()
 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する
 移動する

その他（多種こだわり〔時間、場所、衣服、他者の行動等〕があり、自身が思うような行動ができない）
＜学校生活関係について＞

その他補足

○小学校 5 年時の担任に「今日でぼくの小学校生活は終わりです。」と宣言し、それより卒業まで不登校であった。

○本校中学部への入学を機に登校を再開した。

○学校に関するものについて強いこだわり嫌悪感があり、学校は「スクール」先生は「ティーチャー」と呼ぶ他、教職員による身体接触も苦手、学校を象徴する物品（机やイス等）や学校の水に触れることも苦手である。

○制服は着用できず、制服に似た私服で登校している。

○基本的に廊下等に自身のスペースを確保して生活している。（教室に入ることはできるが、用事が終わると自分の居心地の良い場所へ移動。教室内の入口付近にスペースをつくっていた時期もあり。）

○昼食は毎日弁当を持参し、自分の決めた場所で決まった時間に食べている。(10時30分、少しでも過ぎると13時05分、それを逃すと食べることができない。)

○下記のような場面で「くせ(本人はこだわりのことをくせと言う)があるから、何もできなくなってしまうんだよ。」等と困り感を表現することがある。

- ・移動に際して、数10メートルの移動に10分単位の時間を要したり、通りたくても通れなかったり、入ったりできない場所がある場面。
- ・自分の中で○時○分に何をするとスケジュール化されておりその時間ぴったりに予定を消化できなかった場面。(可視化することは強く拒否)
- ・特定の者に対して、行動や発言内容等にも強いこだわりを見せ、通る場所の細かい指定や行動の巻き戻しをしたり、言葉の訂正に時間を要したりする場面。
- ・物の配置等にも本人の中で表現していないこだわり(他者は知らない)があり、それに変化があった場面。

○出席状況については、自分で計画的に休みをとる等をしながらおおむね良好である。(Fig01)

<学習関係について>

○読み書きや数処理について、生活の中で困り感を見せることはない。

○語彙や知識も豊富で生活年齢に即した会話力があり、相手によって言葉をつかい分けることもできる。

○想起やその表現についてもスムーズである。

○苦手な相手に対して、はっきり「話しかけないでくれますか」等と伝えて拒否の態度を示す場面も見られる。

<好きなこと・生かしたいこと>

○動物全般が好きで、ヘビや昆虫類を飼っている。

○特撮物が大好きで豊富な知識を有している。

○ICT機器の操作に長けている。

○趣味の世界の話や種々の豊富な知識を披露することが好きである。

○思考の幅も広く多様な表現力がある。

<その他>

本生徒は2023年にLEARN in やまぐち『真夏の秋吉台で朝まで昆虫観察』へ参加。(生まれて初めて一人での外泊)

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android iOS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称： かえるかな

紹介 URL： <https://apps.apple.com/jp/app/かえるかな/id1516098548>

名称： Chat GPT（ブラウザ版）

紹介 URL： <https://chatgpt.com/>

名称： CapCut

紹介 URL： <https://apps.apple.com/jp/app/capcut-動画編集アプリ/id1500855883>

名称： Power Point

紹介 URL： <https://apps.apple.com/jp/app/microsoft-powerpoint/id586449534>

名称： Drop News（配信終了）

紹介 URL： <https://droptalk.net/dropnews/>

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

地域のインクルーシブ教育のリソースとして機能するためには、まず自校が多様性を認め合い、得意や個性を生かせる環境づくりが第一歩と考え、以下の配慮をスタンダードとして共通理解を行い実践にあたった。

①環境の配慮—学校生活の場所を本人に任せて、移動も自由とした。（Fig02）

②時間の配慮—時間割等に捉われずスケジュールは本人に任せた。（Fig03）

③個性の配慮—服装、持参物、食事等、危険物以外は規制せず趣味や得意をアピールするものは大歓迎とした。（Fig04）

*実践者が大嫌いなのでヘビだけは厳禁（家で大ヘビを飼育中）

○実践Ⅰ：「いつきタイム」を創設と「DropNews の解説」

廊下から朝の会の様子を興味津々に覗き込み、DropNews に対して得意げに評価や解説をしていたので、朝の会に知識や趣味の世界を披露できる「いつきタイム」と「DropNews 解説」を本人の同意のもと創設した。

これらを通して、こだわりを忘れて過ごすことができる時間をつくること、人とのつながりを生むこと、何より自身が楽しい時間を過ごすことを目標として行った。

「いつきタイム」では、得意な ICT 機器の操作力を生かすことができるように電子黒板、iPad 等を自由に使用できるようにした。また、「DropNews 解説」では ChatGPT を紹介し、疑問に思ったことや知識を補完できることを説明し（嘘もあることも説明）積極的な利用を勧めた。（Fig05_1）（Fig05_2）

○実践2：電子マネーを使用した買い物にチャレンジ

宣伝広告や各種情報にも関心が高いので、毎週金曜日はお弁当をやめてコンビニやスーパーへの買い物を提案した。その中で、ICT や新しいものへの興味関心が高いことを考慮し、お金は使わず電子マネーを使用すること、アプリ「かえるかな」を使用すると予算いっぱい簡単に買えることを説明すると快諾してくれた。

これらを通して、お金という煩わしいものなしで買い物を楽しむこと、本人にとっての社会参加、さらに総合支援学校近隣の店舗（地域）と共に育てていく視点の共有等にも期待した。（Fig6_1）（Fig6_2）

○実践3：創作活動の期待

iPad のアプリを自由に使用できることを説明して（本県では県のポータルサイト内のアプリを自由にインストールできる）家庭で行っているアプリを使用した創作活動を学校でも行ってくれることを期待した。

これらを通して、学校時間の充実とともに、こだわりを忘れる時間を増やし心身への負担を軽減すること、何より得意な力を発揮することにより「すごいね」と言われる機会をつくることをねらいとした。（Fig7_1）（Fig7_2）

以上のような実践を通して、こだわりをなくすのではなく、こだわりのない時間や空間をいかに楽しむことができるかを目指した。その中で、周囲の「なんで僕のことをわかってくれないんだ」「やりたくてもできないんだよ」等の計り知れない思いをしてきたことの共感的理解と本生徒がやりたいことの実現を目指す他、「自由な場所」「自由な時間」「自由な方法」のスタンスを校内に広めることからインクルーシブ思考への転換を図り、学校力をエンハンスしていくことも目指した。また、地域に出かけることを通してのインクルーシブ社会の推進、本人の得意を生かす場面を創ることにより本生徒の社会生活への参加を進めていくこともねらいとした。

■インクルーシブ対応状況について

① インクルーシブ対応の検討の児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input type="checkbox"/> 宿題 <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input checked="" type="checkbox"/> その他（本人の使用したいとき）

②周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

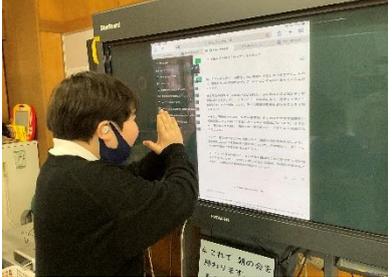
GIGA スクール構想の理念等について全職員に（いつでも使える本人のもの）（社会参加への必須アイテム）（とにかく使ってみよう）を繰り返し周知し、新着任者等に対しては「GIGA スクール構想について」を必須研修として行い、毎日保管庫から必ず出して児童生徒のもとへ置いておくことを徹底した。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限ります。詳細は投稿要綱をご確認ください。

		
Fig01	Fig02	Fig03
翌日のお休みの計画をスケジュールボードで周知	「ここならできる」と下足箱近くで紙コップ工作中	心地よい食事スペースを確保してのお弁当タイム
		
Fig04	Fig05_1	Fig05_2
カブトムシと登校し一躍注目の的に！	「いつきタイム」で自分の趣味についての発表中	ChatGPT にニュースでの疑問等を質問中
		
Fig06_1	Fig06_2	Fig07_1
電子マネーのカードを手に入れて大喜び	電子マネーを使っでの初めての買い物	iPad のアプリを使用しての創作活動中

		
Fig07_2 アナログ（紙芝居）での 創作活動中	Fig08_1 人口減少問題について質問 してよい結果を祈る様子	Fig08_2 リュウグウノツカイにつ いて解説している様子
		
Fig09_1 海賊の衣装でコンビニエ ンスストアへ	Fig09_2 焼き鳥の取引が成立してゴ キゲンで飲食中	Fig10_1 制作した学級紹介ムー ビーの一部
		
Fig10_2 制作した物語の犯人が逮 捕されるラストシーン	Fig11_1 文化祭で自前のサングラス とマイクでリポーターに！	Fig11_2 文化祭の感想を全校放送 で発表

■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

○実践1：「いつきタイム」の創設と「DropNews 解説」

- ・「いつきタイム」では、iPadを使用した情報提供の他、アナログ資料を家庭から準備して披露する等の積極的な姿勢が見られた。時には、外来種の珍しいカブトムシやクワガタ等とともに登校し披露することもあり、その際はクラスを超えた広い範囲で注目を集め自身の学校生活の充実へとつながった他、他の生徒や教師にとっても驚きや学習の機会ともなった。
- ・「DropNews 解説」では、自身が疑問に思ったこと等の情報の補完だけでなく、他の生徒にわかりやすく説明するために ChatGPT を使用し、読みの苦手な生徒に対してわかりやすい言葉で説明している場面も日常的にみられる等、本生徒のインクルーシブな姿勢も感じ取ることができた。

◇印象的なエピソードとして

①『人口減少のニュースにピンチを感じて』

「50年後には人口が8700万人に！」のニュースを見て「これはやばい」とChatGPTに同様の内容を尋ねて、祈るように回答を待っていた。そして「これからの努力次第です」の回答にホッと一息つき他の生徒に「大丈夫だよ」と解説していた。(Fig8_1)

②『大好きな生き物ネタに』

リュウグウノツカイが捕獲された際に、捕まえ方を尋ねると「伝説上の生き物なので捕まえることはできません」との回答に「うそつき！知らない人が見たら信じてしまう」と大興奮だった。(Fig8_2)

実践1を通して、時間のこだわりによって朝の時間にやりたくてもできなかったことも多々見られたが、時間の配慮をスタンダードにすることにより、自ら発表できそうな時間と他の生徒が参加できそうな時間を考え再設定しチャレンジする等、今まで見られたことのない姿が日常的に見られた。これらの様子から、自ら時間のこだわりを理解し、冷静に対処しようとする気持ちが生まれたのではないかと考えられる。また、本実践によって自己肯定感の向上及び学校生活の充実にもつながったのではないかと思われる。

○実践2：電子マネーを使用した買い物にチャレンジ

・予想通り電子マネーやアプリ「かえるかな」に強い興味関心を示し、それを使用してみたい気持ちから、不登校になって以降できなかった買い物や外食ができるようになった。また、次回の買い物や外食先をリクエストし、楽しみを持って生活できるようになった。

・自由な飲食をスタンダードにすることにより、電子レンジの使用やインスタント食品の調理等、家庭では全く見られない姿が見られた。

・ファストフード店では、ハンバーガーの注文の際「オニオンとピクルス抜きをお願いします。」と自分から伝える等、こだわりのない相手とはスムーズに表現活動ができることがわかった。

◇印象的なエピソードとして

①『仮装で登校した日にコンビニの人にも見せなきゃと』

海賊の衣装で登校した日に「買い物に行きたい」と言い、コンビニの店員さんに自慢げに衣装を披露していた。店員さんにも絶賛していただき楽しい買い物となった。その中で、地域の多様性への理解を感じ取ることができた他、本生徒が多様性を認め合える関係づくりの重要な役割を果たしているとも感じ取ることができた。

(Fig9_1)

②『買い物の合計が1000円をオーバーしたときに』

スーパーに買い物に行き、焼き鳥と焼きそばのお祭りメニューを買って食べると決めていた際、6本入り焼き鳥しかなく「かえるかな」で予算オーバーすることを確認したが、強いこだわりがあり買えないとわかっていても変更できない状況になった。ここで、処理しきれない状況から混乱に陥るところであるが「かえるかな」を見て「96円オーバーだから1本あげるからお金出して」と頼んできた。「ナイスアイデア」と称賛されゴキゲンで買い物も終了し、楽しく食事をすることができた。「かえるかな」による可視化によって冷静な判断を生んだことその他、現物で対価を払おうとする生活力の高さも確認することができた。(Fig9_2)

実践2を通して、まず電子マネーとアプリ「かえるかな」というツールの使用により、お金という煩わしさから解放され純粹に買い物を楽しむことができたと思われる。その純粹に楽しむ気持ちから、焼き鳥1本の件も冷静に対処することができたとも思われる。これらから、他の児童生徒に対しても、電子マネーとアプリ「かえるかな」の組み合わせは、純粹に買い物を楽しむための有効なツールとして期待できると考えられる。また、仮装での買い物の際の店員さんの温かい言葉や対応に、生徒自身が認められたうれしさを感じることができた他、地域の多様性を認め合うインクルーシブ思考の広まりを感じ取ることができた。

○実践3：創作活動の推奨

・自宅での余暇にも使用している CatCup をインストールできることを知ると、自分の趣味に関するものを動画にまとめ披露し楽しんでいた。その中で、YouTube を画面録画し、それを BGM に使用する等高い技術力も見られた。

・PowerPoint を使用して、教師や生徒の紹介を自分の趣味と重ねて密かに制作して披露する等、自分の趣味の世界としてだけでなく、相手の反応を期待しての行動も見られた。

◇印象的なエピソードとして

①『学級紹介ムービー制作』

私が、学部集会での学級紹介ムービーをつくっているのを見つけると、自分から競うように黙ってムービーをつくりはじめた。すると、あっという間に自分の趣味を取り入れたモノクロホラー風のムービーを完成させた。その後、集会で披露すると「怖くて見られなかった！」と1年生が言ってきたことに大喜びしていた。(Fig10_1)

②『表情豊かな作品を制作』

ICT の使用ではないが、ストーリーからすべて考えたイラスト付きの物語を制作している場面も見られた。その中のイラストでは、文面と一致した表情をしたイラストを描き、学校だけでなく家庭においても大絶賛を受けた。その表現力から、他者の感情の理解だけでなく、メタ認知能力の高さもうかがえ、困り感のコメントの深さについて考えさせられた。(Fig10_2)

実践3を通して、場所や時間を制約しないことを教師だけでなく、生徒たちも認め、また作品への期待をもって得意な活動として認め合ったことがこの結果を生んだと思われる。この活動を通して、教師たちが多様性を認めることの大切さを再認識できたことだけでなく、生徒たち自身にも個性を認めてもらえる安心感や得意なことを頑張ってみようと思う意欲が生まれたのではないかと思われる。

○これらの実践を通しての変容等についてのまとめ

- ・こだわりの内容の変化や消失等はないが、こだわりを忘れて楽しむことや集中して何かに取り組むことができる時間が生まれた。
- ・保護者の「続けて学校行っているから疲れる前に休んでもいいよ」の言葉に「そんなことじゃ学校は休めない」との返答等から、自己肯定感の向上や学校生活に充実感を抱いているのではないかと思われた。
- ・翌日、またその先の楽しみを考えて学校生活を送ることができるようになった。
- ・人のつながりの大切さを感じ取ることや大人（主に教師）に対して今までにない思いが生まれたのではないかと思われた。

*友だちという存在の確立。教師に対して「うるさい」や「ぶっ殺す」、ダイレクトな感情表現。（今までの学校生活では見られたことはなし。）

②対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

教職員が他の児童生徒と異なる服装や時間等にとられることなく、児童生徒の得意やできたことに対し「すごいね」と言える素地ができた。さらに、文化祭への参加や全校放送への出演のオファー等もこちらの要請なしにデフォルトで本人に適した方法を選択できる等の配慮が学部間のみならず全校規模で自然にみられた。（Fig11_1）

（Fig11_2）また、体験入学等の際、本生徒の活動の様子を保護者に見ていただくことで、本校のインクルーシブな学校（社会）へのスタンス、多様性を認め合い、得意なことに向け、それを生かしていく教育の姿勢を示すことができるものとなった。

その他、通常の授業で作文の際にもデフォルトで原稿用紙とアプリの使用を選択できることがスタンダードになったことや、目的を達成するための方法の自由化（タブレットや電卓等の使用）が進んでいった。

学校外については、原則撮影禁止の店舗において「子どもたちの成長の記録を」と、本生徒の活動場面でなく、学校全体に「一声かけていただければOKですよ」と撮影許可をいただいた。また、袋詰めの方法等のレクチャーやレジから離れて商品の説明をしていただいたり、ときにはこだわりの商品がないと困っている生徒に対してバックヤードの検索等の様子を見せて納得のいく説明をしていただいたり、様々な配慮を自然な流れでしていただき、総合支援学校近隣の店舗として共に育てていくという姿勢を確認することができた。

児童生徒や保護者についても、「特別扱いだ」との意見や、本生徒の真似をして同様の活動をしたがるようなことは全くなかった。素直な気持ちでよさを称賛する場面のみ見られた。これは、本実践の成果としてではなく、もともとインクルーシブな素地を持っていたと思われ、実践者としてはとてもうれしいことであった。

最後にもう一つ、本生徒との出会いや日々の学校生活の中で考えさせられたことや他の教員たちの意識が変わったこと。本生徒は、例えば「そこは通れない」等の自身の行動のこだわりや、「ぼくの右側を追い越しちゃだめ」等の他者の行動へのこだわりについて話してくれた。もし、それが発語のない児童生徒やコミュニケーションの苦手な児童生徒だったら。こだわりのある児童生徒が、自分の行動、他者の行動に困惑しているときに、行動の促しや指導を受けたなら。「待って!」「困っているんだ!」と心で叫んでいる児童生徒たちにそうしたなら。「傷つけない」、「したくない」と思っている、自分や他者を傷つけるような行動、その他の行動問題へとつながってしまい、苦しんでいる児童生徒たちがたくさんいる。本生徒との出会いは、そんなことを考えさせてくれるきっかけをくれた。手を引くより笑顔で待つ。そして他の教員にも笑顔で「まあええじゃん。いろいろあるんじゃないだろう」として「つらいよねえ」と。笑顔とちょっとした共感。小さなことだが、本生徒と関わった教員たちに確実に広まっていったことであった。